

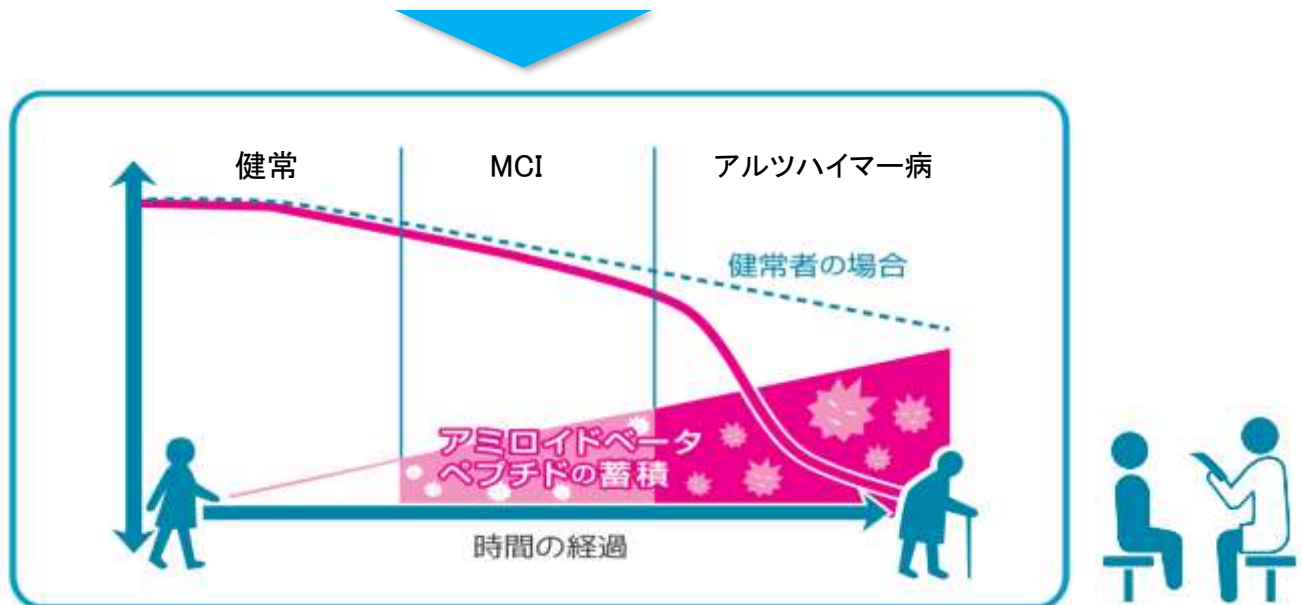
認知症予防のためのリスク検査

MCIスクリーニング検査

< MCI(軽度認知障害)とは? >

- ◆ MCI(軽度認知障害)とは、日常生活には支障がないけれども、微細な認知機能の低下が認められる状態です。
- ◆ MCI(軽度認知障害)の状態を放置してしまうことで、アルツハイマー病に移行するリスクが高まります。

MCI(軽度認知障害)は、認知症予防のキーワード



< MCIスクリーニング検査とは? >

アルツハイマー病はアミロイドベータペプチドが脳内に蓄積されて神経細胞がダメージを受けることで発症するといわれています。本検査では、このアミロイドベータペプチドを排除する機能を持った3つのタンパク質の血中濃度を調べることでアミロイドベータペプチドへの「防御力」を算定し、間接的に軽度認知障害のリスクを評価しています。



MCIスクリーニング検査で早期に認知症のリスクを知り、適切な対処・予防を行うことで、認知症の予防が可能になります。

< 報告書サンプル >

【報告レポート】

MCEI 太郎 様の検査結果は、以下の通りです。

軽度認知障害（MCI）リスク判定

MCIの方の分布を示すグラフ

MCI リスク 低 高

※「▲」のある位置が、あなたのMCIリスクを示しています。

判定	判定	説明
A	A	健康です。 今後も健康的な生活を心がけましょう。
	B	軽度認知障害（MCI）のリスクは低めです。 健康的な生活を積極的に習慣づけることでMCIのリスクを知 えることができます。予防の効果は早いほど高いので、生活 習慣を改善し予防に取り組みましょう。
	C	軽度認知障害（MCI）のリスクは中程度です。 今後の生活習慣によってはMCIのリスクが高まります。食事 や運動などの生活習慣を見直し、ただちに予防に取り組みま しょう。また、心配な方は専門医による早期の検査・診断を 受けられることをおすすめします。
	D	軽度認知障害（MCI）のリスクは高めです。 MCIの段階でも予防により認知症の発症を防ぐ・遅らせるこ とが可能です。すぐに予防を始めるとともに、専門医による 詳細な検査・診断を受けられることをおすすめします。

- 2 -

判定結果はリスクに応じてA～Dの4段階にて報告致します。受診後の認知症予防のため取り組みを解説した別冊資料も提供させていただきます。

【別冊資料】

認知症を予防するには？

4. 脳を活性化させよう！

認知症を予防するには？

認知症を予防するには？

MCIスクリーニング検査を受診頂いた方へ

はじめよう 認知症予防

< 検査の受診に関して >

■ 判定結果に影響を与える可能性がある疾患について

本検査において影響を受ける可能性のある病気は、急性障害、急性腎障害、自己免疫性腎疾患などの自己免疫性疾患（急性期）、重度の栄養不良などが考えられます。補体タンパク質（C3）の活性化がおきる疾患では本検査の判定結果に影響を与える可能性があります。トランスサイレチン（TTR）は栄養状態で変動します。極端なダイエットなどでは本検査の判定結果に影響を与える可能性があります。

■ 検査を受ける頻度

検査結果により必要な頻度は異なります。A判定の方は隔年での検査、B判定の方は年1回、C判定が出たら半年～1年ごとの定期検診をおすすめします。D判定の場合は二次検査を受けていただくことをおすすめしますが、二次検査で問題なかった方でも以降は1年に1回の定期検診をおすすめします。

検査価格

検査に関するお問い合わせ先